（東日本大震災・原子力災害伝承館）

東日本大震災・原子力災害伝承館の調査・研究

東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災・原子力災害伝承館は、未曾有の複合災害である東日本大震災と原子力災害の記憶と記録、そこから得られる教訓、そして福島が復興していく姿を、国や世代を超えて未来へ継承する施設として、2020年9月20日にオープンしました。

当館では、資料の収集・保存、展示、研修のほか、東日本大震災と原子力災害に関する調査・研究に取り組んでいます。

１．調査・研究の目的とミッション

○東日本大震災から時間が経過し、避難指示解除や福島の復興は着実に進展しているが、住民の帰還に向けては、生活環境整備、風評被害対策、産業・生業の再生など、依然として課題が山積。

○原子力災害の実態については、各事故調査委員会以降あまり調査されておらず、原子力災害に加え、復興過程まで俯瞰的・体系的な調査・研究が進んでいない課題がある。

○国内外において福島に対する記憶の風化が進んでいる。

◎福島県が蓄積した経験や記録について、調査・研究を通じて教訓として抽出し、後世に継承することが伝承館の役割。

【目的達成のための３つのミッション】
①教訓の体系化　②教訓の発信　③人材の育成

２．調査・研究の活動状況

○研究班による調査・研究活動

・館長及び上級研究員が客員研究員等と研究班を組織し、調査・研究活動を実施。

【各研究班のテーマ】
・高村班：福島の環境と人をつなぎ、伝える
・安田班：原子力災害下住民防護行動における対策の総合的検証
・関谷班：東日本大震災から10年後の記録収集、基本統計・データベースの作成、研究集成
・開沼班：被災・復興の過程・課題の全体像を洗い出す

○専門研修の実施

・館長及び上級研究員が、放射線被ばくと健康影響、原子力防災、風評被害など、それぞれの専門分野に関する講座を実施。

○学術研究集会の開催

・東日本大震災及び原子力災害に関わる研究者等を対象とした学術研究集会を令和5年3月に初開催。１日目のエクスカーションに57名、２日目の研究報告会には73件の発表と166名の参加があった。
・令和５年度も開催予定（令和6年3月19日～20日）

３．調査・研究の体制

館長
副館長
企画事業部
企画広報課　事業課

館長　高村 昇
（長崎大学原爆後障害医療研究所 教授）

◎館長・上級研究員に加え、令和4年度から常任研究員が着任し、伝承館の調査・研究体制が整った。常任研究員は、館長・上級研究員のアドバイスを受けながら個別研究を実施。

調査・研究部門

上級研究員　３名

安田 仲宏
（福井大学 附属国際原子力工学研究所 原子力防災・危機管理部門 教授）

関谷 直也
（東京大学大学院 情報学環 総合防災情報研究センター 准教授）

開沼 博
（東京大学大学院 情報学環 准教授）

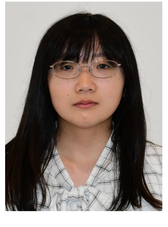
常任研究員　５名

青砥 和希 <R4着任>
【研究内容】
・地域ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ　・教育復興
・ｻｰﾄﾞﾌﾟﾚｲｽ　・人文地理学
・教育社会学

葛西 優香 <R4着任>
【研究内容】
・文化・宗教・社会意識
・社会集団・社会組織
・社会的相互作用　・災害ﾌｨｰﾙﾄﾞ学

静間 健人 <R4着任>
【研究内容】
・広域避難　・災害時要配慮者
・災害伝承施設　・社会心理学

山田 修司 <R4着任>
【研究内容】
・哲学　・倫理学
・科学社会学・科学技術史
・リスク　・防災　・移動



大杉 遥 <R5着任>
【研究内容】
・放射性廃棄物　・理解醸成活動
・科学技術コミュニケーション
・対話・語り